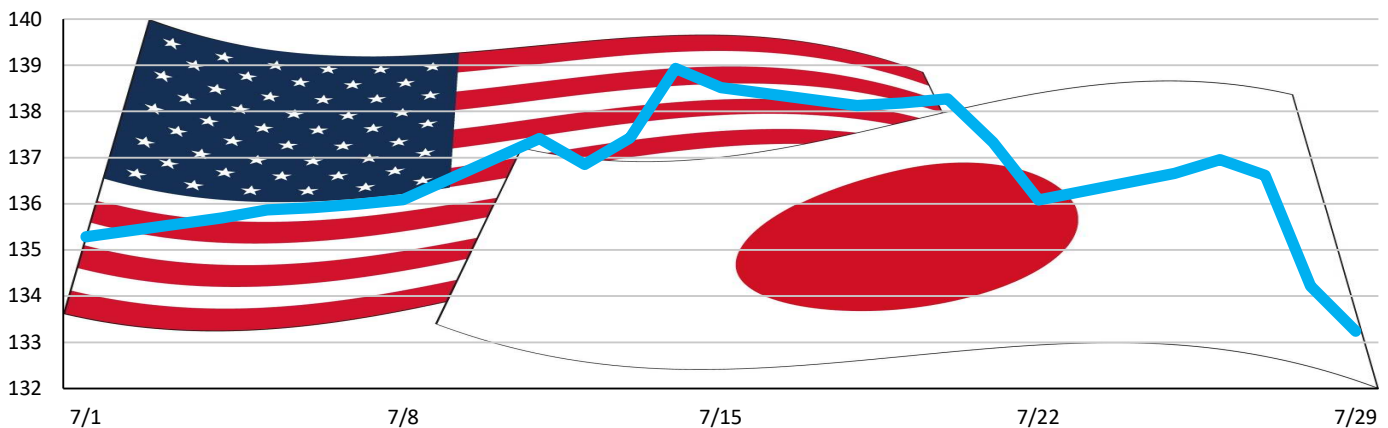


MARKET REVIEW

先月の振り返り：7月のドル円相場は139円半ば～132円半ばで推移。英国ジョンソン首相が辞任に追い込まれたことでポンド売りが進んだことや、ユーロ売りも重なったことで相対的にドルが買われる状況になった。次回FOMCで1.00%の大幅利上げに踏み切るとの見方や当局による為替介入が改めて否定されたことでドル買いが進み、ドル円は139円台半ばまで円安ドル高が進行。しかし各地区連銀総裁から1.00%の利上げを否定する発言や米国の各経済指標発表で市場予想を下回る数値が相次ぎ米国景気後退懸念が強まり、一転してドル売りが進み135円台半ばとなった。その後、米FOMCにおいて0.75%利上げ発表でドル買いが強まったが、FOMC後に行われたパウエルFRB議長の会見を受けて次回以降の大幅利上げ観測が後退したことでドル売りが加速。さらに月末に発表された米GDP速報値が予想外のマイナスだったことでドル売りに拍車がかかり、132円台半ばまで円高ドル安が進んだ。

(円) 米ドル円為替レート(終値ベース)



EXTRA VISION

今後の展開：日米金利差を意識した円売りドル買いが続いていたが、米国の景気減速が浮き彫りとなってきたことで、今までのように金利差に着目した積極的なドル買いという状況ではなくなりつつある。ただ全ての米経済指標発表が悪化した数値ではなく、また米FOMCも利上げ打ち止めとなっていないため、今後も底堅く推移するとの見方もあり、売り買いは交錯していきそうだ。そのため短期の値動きに惑わされないようにポジションを構築していきたい。

今月の主な経済指標 ※ 日本時間

日付	時間	国	指標名	重要度
8 / 17 (水)	21 : 30	US	小売売上高	☆☆☆☆
8 / 23 (火)	23 : 00	US	新築住宅販売件数	☆☆☆☆
8 / 25 (木)	21 : 30	US	米GDP改定値	☆☆☆☆
8 / 26 (金)	21 : 30	US	個人消費支出	☆☆☆☆
9 / 2 (金)	21 : 30	US	米雇用統計	☆☆☆☆☆
9 / 8 (木)	21 : 15	EU	欧州中央銀行 (ECB) 政策金利	☆☆☆☆
9 / 13 (火)	21 : 30	US	消費者物価指数 (CPI)	☆☆☆☆

本書面は、合同会社フィナンシャルヴィレッジプレゼンス(以下「当社」)が、投資一般に関する情報提供を目的とするものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。本書面に記載されている情報には将来的な業績や出来事に関する予想が含まれていますが、それらの記述はあくまで予想であり、その内容の正確性、信頼性等を保証するものではありません。また、情報の正確性については万全を期しておりますが、その正確性、信頼性等を保証するものではありません。投資に関するすべての決定は、ご自身の判断でなさるようお願い致します。本書面に記載されている情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いません。